

1. 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。(10:10)
  - a. ここでイエスが言及している盗人とはサタン自身のことだと思われる。サタンは創世記で初めて登場するが、彼が人類堕落をけしかけた張本人である。
  - b. サタンはあなたが最も関心を持つ人物を装ってくるが、その目的は盗み、殺し、滅ぼすことである。サタンが差し出してくるものはとても魅力的に見えるが、そこには必ず代価がある。そしてその代価は必ず差し出されたものよりも高くつくのである。
  - c. その一方でイエスは私たちに豊かないのちを与えようとしておられる。その豊かないのちというのは私たちの魂と引き換えにサタンが与えるようないのちやライフスタイルではない。豊かないのちというのは愛、喜び、平安、忍耐などによって測られるもので、どのような状況であろうと私たちはそれらの根源である神につながっている所以他们は常に高く（豊かに）保たれる。その一方で神とのつながりなしに豊かないのちを得ようとする状況に関わらず私たちの内なる人は私たちがつながりを持つもの、あるいは人物を映し出す。盗人は豊かないのちを与えるためではなく、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりすることに喜びを見出すので、あなたと関わりを持つとうとする。
  
2. 私は、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。(10:11-13)
  - a. イエスはなぜご自身が聖書の羊飼いの預言の成就であるのかを説明されているだけでなく、羊としての私たちが直面している危険や脅威を指摘されている。盗人だけでなく狼や雇い人も登場する。
  - b. 狼は羊のなりをしているかもしれないが内側は羊ではない。このたとえでは盗人がサタンで狼はその手下になる。彼らは羊を食い荒らすためにやってくる。羊たちと、羊の格好をした狼の見分け方はその噛み付き方である。
  - c. 雇い人とは偽の指導者たちである。彼らは自分たちの利益しか考えていない。収入、地位、影響力など、自分勝手な理由で活動している。まさに文字通り彼の羊たちのためにいのちを捨てたイエスほど犠牲を払った指導者は現れないであろうが、真の羊飼いというのはイエスから牧するように召しを受けた者で、他の者より高い基準で特徴付けられている。（すべての神の羊は自己犠牲の愛によって特別に扱われている。）
  
3. わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、私を知っています。それは、父がわたしを知っておられ、私が父を知っているのと同様です。また、私は羊のために私のいのちを捨てます。わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたしはそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群れ、一人の牧者となるのです。(10:14-16)
  - a. イエスの自己犠牲の愛とは、ただ自分より先に他人を置くというだけでなく、文字通り十字架で死なれることであった。イエスはここで私たちのいのちの代価としてご自分のいのちを捨てられると預言されている。これはイエスが良い牧者であることの証明である。「わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してください。だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」(10:17-18)
  - b. この宣言は人類のために死なれる、ということと同時に、17節「自分のいのちを再び得るために」は復活の預言である。
  - c. 最後に、イエスをご自分の羊以外にも他の羊がいることを述べておられる。これはこの章の始め(10:1-6)に出てきたイエスが囲いから羊を引き出すという話に戻る。先週はイエスが羊を出そうとしている囲いはイスラエルを指すという話をしたが、ここではイエスはイスラエルだけでなく全世界の羊小屋に対して良い牧者であるとおっしゃっている。